

■■■■ 図書館問題研究会 第40回研究集会 in 飛騨 参加報告 ■■■■

2月16日(日)に飛騨市図書館で開催された図書館問題研究会(以下、図問研)の研究集会に、江藤と益山が参加した。2人とも図問研の会員ではないが、富山県図書館を考える会が加盟している「図書館友の会全国連絡会」の告知を見て、飛騨市なら何とか日帰りできること、富山ではあまり触れることのないトピックテーマに惹かれて、研修を希望し、受け入れられた。

図問研は、住民の学習権と知る自由を保障する図書館の発展を目指して活動する図書館員、住民、研究者など図書館に関心を持つ人々たちによる個人加盟の団体である。会員の実践を交流し、理論化し、次の実践へのつなげていくことによって様々な図書館の課題に取り組んでいる。県単位で支部を結成し、現在26支部がある。月刊の機関誌は『みんなの図書館』。会員の理論研究や実践を発表し、共同調査・研究の促進をはかるため、研究集会を開催し、『図書館評論』(年刊)も発行している。 <http://tomonken.sakura.ne.jp/tomonken/>

1 パネルディスカッション「武雄、CCCモデルを考える」

川越、高野、新出の3氏の会員により

2013年4月、佐賀県武雄市では市立図書館がTUTAYAなどを手がけるカルチャ・コンビニエンス・クラブ(CCC)を指定管理者として新しくオープンした。東京代官山蔦屋書店のノウハウを導入したといわれる図書館の特徴は以下のようなものである。

- ・ 20万冊の蔵書が常時開架、閲覧できる
- ・ 年中無休、午前9時から午後9時まで開館
- ・ 雑誌・文具売り場、DVD・CDレンタルコーナーの併設
- ・ 併設のスターバックスコーヒー店内で、売り場の雑誌を(無料で)読める
- ・ 希望者はTUTAYAカードを図書カードとして利用できる(Tポイントが付く)

2012年5月に図問研より武雄市長宛てへ「新・図書館構想における個人情報の取り扱いについての要請」が提出され、Tポイント・Tカードの導入は、個人情報や貸出履歴、匿名化した詳細な利用データ等がCCCに渡り、マーケティング等に利用されることへの危惧を指摘。また、そうした情報が図書館の外部に流れ、図書館サービス以外の事業に活用されることは、読書や利用の秘密を守ることが利用者の内心の自由を守ることであるとしてきた「図書館の自由」に相反すると申し入れられた。

問題点として指摘されたのは次の通りである。

- ・ 自治体が公共施設の運営を指定管理者に委託する理由の一つは経費の節減である。このため人件費が低く抑えられる。従って、力量のある職員の継続雇用、若手人材の育成等は困難になると思われる。
- ・ 既存の施設を一部 2 階建て(キャットウォーク)のしゃれたつくりで改装したため、災害時の避難誘導に支障をきたすと思われる構造になってしまった。また、空調が効きにくい場所ができた。

2 特定秘密の保護に関する法律と図書館

報告：新出 氏（白河市立図書館）

・特定秘密保護法と図書館の関わり

図書館は、情報提供機関であり、図書館は個人の秘密を保有している。

図書館は表現の自由及び知る自由、知る権利の保障に努める機関である。

国政について国民が十分な情報を享受したうえで政治参画することが国民主権の前提であるため、国家・行政の情報をできるだけ公開するのが図書館の在り方。

収集、提供する資料が「特定秘密」に指定された場合、提供した図書館員が処罰の対象となることも考えられる。漏らすおそのの有無を調査する適正評価の照会が図書館へもたらされた場合の検討が必要。

・特定秘密保護法の問題点

対象となる「特定秘密」の範囲が広範かつ不明確なため、秘密指定拡大の恐れがある。

行政機関の長の判断により秘密指定が可能となっており、指定の妥当性をチェックすることが困難。

指定の期間延長や解除を含め、制度運用の妥当性、適切性を担保する仕組みが明らかにされていない。

取材・報道を萎縮させ、国民の知る自由、言論・表現の自由を実質的に制限するものとなりかねない。

適性評価制度によるプライバシー侵害等も問題。

【図問研より 2013 年 1 0 月「特定秘密の保護に関する法律案」に反対する(声明)を発表（HP を参照）】

3 「明日の中之島図書館を考える会」の役割

報告：稲垣房子氏（明日の中之島図書館を考える会世話人代表）

2012 年 6 月、橋本大阪市長は大阪府立中之島図書館について「(中ノ島)あそこに図書館はいらないですよ。資料はすぐにどかせますから」と発言し大きく報道された。これに対し、中之島図書館の存続を願う人々の声を集めて発足したのが「明日の中之島図書館を考える会」である。

「考える会」は、中之島図書館がこの地にある意味を府民皆で考える市民活動で、署名活動やデモはしないという方針のもと、市民団体の集会等に積極的に出向き、中之島図書館の存続を後押ししてきた。

その後 2013 年 11 月、松井大阪府知事は「中之島図書館存続」を発表し、現在耐震補強工事に入っている。